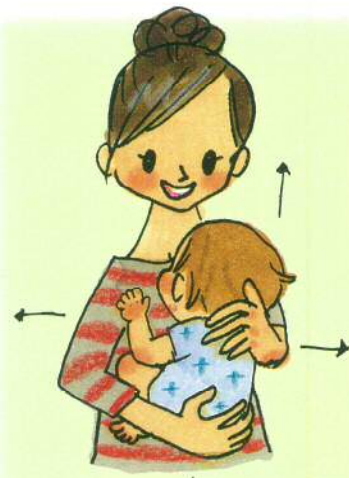


①首を支えた立ち抱きから、前後左右にゆすり、抱っこあそびをする



片手はお尻を支えて、しっかりと抱きましょう。はじめのうちはゆつくりと、慣れてきたら、大きくゆすってみましょう。



②両足を支えてねじると、肩がまわり、寝返る



はじめのうちは手がぬけずにおなかの下に入っていることが多いのですが、次第に自分で手をぬいて前に出すようになり、1人で寝返りができるようになります。

⑦寝転んだまま引っぱる



子どもをおお向きに寝かせて、子どもの両足を握って、ゆつくりと引き寄せます。はじめは座ぶとんの上に寝かせて、座ぶとんと引っぱってあげてもよいでしょう。

0歳児の親子ふれあい体操

4~7ヶ月の運動

親が乳児の扱いに少し馴れてきた4ヶ月頃からできる体操(運動)を紹介します。

体操で育つもの からだを支えたり、寝返ったりする腹筋力や背筋力、移動しようとする脚筋力、空間認知能力、回転感覚やバランス感覚の向上、親(保護者)と子のコミュニケーションづくり、快の体験と情緒の開放

磐田市子ども未来課 TEL. 37-2012 FAX. 37-4631

③プランクポジションをする



赤ちゃんを前向きにし、しっかりと支えてプランクポジションにゆすってみましょう。

④手を支え、起き上がりを促す



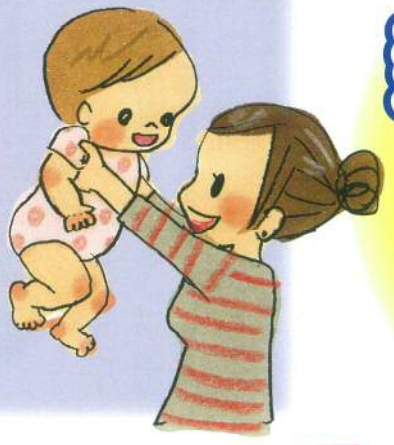
親指を赤ちゃんに握らせて、軽く引いてやると、赤ちゃんが肘を曲げて起き上がろうとします。それに合わせて手を引いてやると、上体を起こし、おすわりの状態まで起き上がります。

⑥コロキになる



赤ちゃんをつつ伏せにして、両腕を広げ、手のひらを下向きにして、お母さんの手の上にのせまします。お母さんは赤ちゃんの手を握らないようにして軽く支えながら、赤ちゃんを反らせます。

⑤高い高いをする



赤ちゃんをしっかり支え、ことばをかけながら持ち上げてみましょう。

**⑧ 軽い抵抗を
与えても寝返る**

寝返りしようとする赤ちゃんの腰に軽く手をあて、抵抗を与えます。からだの筋肉が発達してくると、軽い抵抗を加えても、がんばって寝返るようになります。



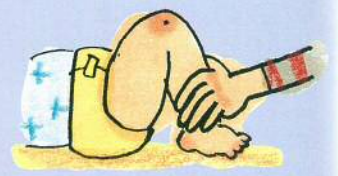
**⑨ 足支え起き
上がりをする**

あお向けに寝た赤ちゃんの両手を片手で握り、もう一方の手で赤ちゃんの足首を軽く押さえ、少し赤ちゃんの手を引くようにすると、赤ちゃんが自力で起き上がろうとします。



⑩ キックをする

赤ちゃんの両膝を曲げて、足首をはさみ、そのまま力を入れて上から押さええます。赤ちゃんは膝を伸ばそうとして、頭の方へ背中ですくと進みます。



**⑪ 胸と足を支え上げると、
足上げ両手つきをする**

赤ちゃんの両足首を片手で支え、もう一方の手を胸の下に回し、赤ちゃんの手は床につけたままで少し持ち上げます。逆立ちをさせることで、視界を変えてあげ、空間感覚を養うこともできます。また、腕の力も強くなります。



**体操は
いいことがたくさん!**



夜の運動はNG
夜に体を動かしすぎると、子どもは血液循環がよくなり、かえって眠れなくなってしまいます。仕事から帰ってきたお父さん、夜の運動あそびはくーとガマンして、体を使ったあそびは、朝起きてから行うのが理想的です。

早稲田大学人間科学学術院
前橋 明 研究室 提供

**⑫ 膝の上へのり、
反り起きをする**

赤ちゃんは喜びます。日常生活で満足度の高い赤ちゃんはよく笑います。笑わない赤ちゃんは積極的に遊んであげましょう。床にボールやぬいぐるみを置いて、後ろに反った時に取らせてみるのもおもしろいです。

シーソーのように
にキックン、パツ
タンと声をかけ
ながらくり返すと、



**⑬ 立ち抱きゆいゆいを
する**

お母さんの膝の上に立たせ、左右にゆいゆいとゆいゆいしてみましょ。

